

令和5年6月第2回 木島平村議会定例会
《第2日目 令和5年6月7日 午前10時00分 開議》

議長（勝山 正）

皆さん、おはようございます。
これから本日の会議を開きます。
本日の議事日程は、お手元に配付のとおりです。
日程第1、一般質問を行います。
一般質問の順序については、議会運営委員会にて抽選のとおりです。
4番 山本隆樹 議員。

（「はい、議長。4番。」の声あり）

（4番 山本隆樹 議員 登壇）

1. ふるさと納税について

4番 山本隆樹 議員

では、通告に基づき2点質問させていただきます。

1点目、ふるさと納税についてです。

この制度は、2008年に創設され、15年経過しました。メリットとして、自治体側は幅広く収入を確保できることに加え、特産品を返礼品にすることによって、地域の消費を拡大するとともに、観光PRにも繋がることができ、木島平村へのファン・サポーターとして応援いただけます。

料金は大まかに、3割が返礼品に充てられ、2割はふるさと納税サイトの手数料、残りの半分5割が自治体の収入になります。例えば、村として1億円の寄付金が集まれば、3,000万が返礼品に充てられ、2,000万が納税サイトの手数料、残りの5,000万が自治体の収入になります。

都市部に集中する税収を地方へ分配し、地域活性化に繋がる効果があるということで、全国でふるさと納税が躍進しています。

そこで、質問いたします。

1点目、村のふるさと納税の実績の推移、納税額、件数、返礼品の動向を伺いたい。

2点目、今年の今年度の目標数値は、いくらぐらいに着地しそうですか。

3点目、売上増の取組をどう実施しようとしているのですか。

4点目、近隣市町村との比較と、課題をどう捉えているのか、伺います。

以上です。

議長（勝山 正）

日墓村長。

（村長「日墓正博」登壇）

村長（日墓正博）

それでは、山本議員の「ふるさと納税について」のご質問にお答えいたします。

ふるさと納税については、自治体運営における貴重な財源となり、また、地域企業の販売窓口の一つとして、地域の重要な産業にもなっております。

村としても事業者の皆様にお声掛けをしながら、返礼品の充実をしているところであります。

具体的な内容については、産業企画室長に答弁をさせます。

議長（勝山 正）

湯本産業企画室長。

産業企画室長（湯本寿男）

それでは、私から補足して説明をいたします。

まず、1点目の実績の推移はということであります。

寄付額の推移は、本村では、平成26年度から制度を活用して以降、3,000万円前後で推移をしてきました。令和2年度になり、6,900万円の寄付をいただいて以降、令和4年度実績では5,899万円となっております。

件数は、おおむね寄付額に比例しており、令和2年度以降、1,500件から2,000件前後で推移しております。

返礼品の動向としましては、件数ベースでは、ハチミツ、村長の太鼓判を始めとした米、野沢菜などが人気であり、寄付金額ではマッサージチェア、村長の太鼓判、信越自然郷共通リフト券などが上位という状況です。

2点目の目標数値ですが、当初予算ベースでは5,000万円の給付額を見込んでいますが、最終的にはスキー場等、新たな返礼品の期待もあるところ、おおむね8,000万円前後あたりを目標と考えております。

3点目、寄付額増の取組であります。村内の事業者の皆さんや農産物と生産者の皆さんに、積極的に周知をしながら、新規返礼品の提案と募集を行っていくほか、E-BIKEレンタルやツアーなど、観光振興局などとも連携しながら、村内における体験の返礼品も検討しているところです。

また、インターネットを通じての寄付が大半を占めているため、寄付の窓口となる「ふるさと納税ポータルサイト」での魅力アップや、返礼品の魅力が伝わる写真編集などに取り組んでいきたいと考えております。

さらに、スキー場とも新たな返礼品について検討していく予定であり、今後、事業の内容が確定したところで協議を進めていきたいと考えております。

4点目であります。近隣市町村との比較と課題であります。北信管内の6市町村との比較で言いますと、令和3年度の寄付額は少ない方から2番目という状況であります。

近隣市町村の返礼品の違いとしては、中野市は果樹、飯山市はパソコン、山ノ内町・野沢温泉村は宿泊券を中心としている状況であります。

本村については、米や蜂蜜などの農産物を中心としており、課題としては、少し高額で普段なかなか買えないような返礼品が少ないといった課題があると考えております。前述の寄付額増の取組を行いながら、新たな返礼品の工夫も含めて寄付額の増加を図っていききたいと考えております。

議長（勝山 正）

山本隆樹 議員。

再質問

4番 山本隆樹 議員

これから民営化による関係人口の増もあり、これからふるさと納税が増えていくのではないかと期待しています。

再質問として、3点ほど質問させていただきたいのですが、PR方法、広告展開としては、先ほど言われたように「ふるさとチョイス」「楽天ふるさと納税」この2つのポータルサイトを活用しています。ほかにも、いろいろなポータルサイトあるんですけども、例えば「さとふる」とか「ぐるなび」とかの追加はできるのか、それともできない何か課題があって進められないのか、ちょっと伺いたいと思います。

それと、ポータルサイト以外に、新規寄付者増の取組を伺いたい。ポータルサイト以外には、ホー

ムページの充実、ふるさと応援団木島平会への宣伝だとか、調布市民へのPR、調布市民も税収取られてしまうと大変だけど、そういう中で少しでも木島平のファンになってもらえることを期待できるような形での、何か宣伝とかPR方法と、これから民営化によるスキー場の関係者への力の入れ方で必ず増えていくと思います。そういうPRの方法は、どう考えているのか伺いたいと思います。

それと、3点目ですが、広報の5月に「ふるさと納税の返礼品を募集します。」という記事が掲載されました。「村の産業の活性化、地域や地場産業のPRをより進めるため、返礼品の登録をしていただける村内事業者を募集します」という形で、今回の5月号に載ってまして、返礼品の充実をお願いします。

行政としても一つ、クラウドファンディングといったふるさと納税の寄付で、例えば一部の耕作放棄地をみんなで解消しようとか、馬曲温泉の復活を少しでも寄付でやっていけないかというような形で、要はアイデアとやる気で、地方創生の一環で応援できるために、行政としてクラウドファンディングという手法もあるのではないかと考えています。

今言ったポータルサイトの追加、ポータルサイト以外のPR方法、クラウドファンディングの取組の3点を伺いたい。

議長（勝山 正）

湯本産業企画室長。

（産業企画室長「湯本寿男」登壇）

産業企画室長（湯本寿男）

それでは、私から3点の再質問についてお答えをいたします。

まず、1点目のPR方法でございます。

課題としまして、ポータルサイトを増やす方法など様々な方法がございます。ただ、ふるさと納税の総務省が定めるガイドラインの中に、経費率が50%を超えてはならないとございます。

たしかに、ポータルサイトを増やして窓口を増やすことは重要だとは思っております。ただ、ポータルサイトを増やすと、やはり手数料が取られますので、その経費が今の制度でいいますと、それぞれ各社の取扱量に応じて手数料が増えていきますので、もう少しふるさと納税の寄付額を上げていかないと、この辺を増やすことはむやみにはできない状況になっておりますので、まず、地元の事業者の方の商品をいかに多く取り扱うかというところかと思っております。

それと、まず新規のPRでございますが、ご提案のふるさと応援団、各種団体へのPRといったことも大変有効な手段だと思っております。今年、産業企画室では、村外に出た若い人中心ですけれども、同級会を村内でやっていただくということで補助金を創設いたしました。その補助金の交付条件の中に、ふるさと納税のPRも入っておりますので、村の関係したそのような団体についても積極的にPRを図っていきたいと考えております。

最後、クラウドファンディングのご提案でございます。ふるさと納税については、各自治体で様々な寄付金を集める手法がとられております。クラウドファンディング型ふるさと納税も各地域で取組まれておりまして、長野県でも返礼品のない寄付ということでも取り組んでいますので、そういった事例も併せて、いろいろな方策で寄付額をいただけるような形で事業を検討していきたいと考えておりますので、よろしくお願いたします。

議長（勝山 正）

山本隆樹 議員。

再々質問

4番 山本隆樹 議員

ふるさと納税の活性化っていうことで、地域も活性化し、木島平ファンを増やしていく努力をしていただきたい。

そして、再々質問で、今まで寄付者へのアフターフォローと言いますか、御礼、寄付の使い道をこうしましたとか丁寧に伝えて、更なる寄付者へのフォローというのをしていくのが本来の村との関係を繋げていく大きな取組だと思いませんか。今の村の寄付の使い道、何に使われているのか、また、寄付者へどういうフォローをしているのか、お聞きしたい。

議長（勝山 正）

湯本産業企画室長。

（産業企画室長「湯本寿男」登壇）

産業企画室長（湯本寿男）

それでは、再々質問にお答えをいたします。

まず一つ目、寄付者へのフォローであります。こちらとすれば、寄付いただいた方のリストがございますので、そういった方に季節に応じた村の情報ですとか、こういった商品が新たにできましたというような情報をお渡ししまして、新たに寄附をしていただくような取組をしております。

使い道でございますが、村のホームページ等でも公表することになっております。具体的に何にくらという形ではありませんけれども、寄付の目的としてお願いをしている内容で使いますということで、広報させていただければと思いますので、よろしくお願ひいたします。

議長（勝山 正）

山本隆樹 議員。

2. ファームス木島平の未来

4番 山本隆樹 議員

では、2点目のファームス木島平の未来ということについて質問させていただきます。

一般質問で毎回のように取り上げられ、答弁としては「子供を中心とした多世代が寄りついてもらえる居場所として、今後も必要な場所として考えている。住民の皆様のご意見を伺いながら、地域活性化、賑わいを創設できる施設として検討を進める。今後、運営を希望する民間事業者とともに検討を進めていく」としています。

運営を希望する候補者が手を挙げやすくするためにも、公共的な機能の充実が求められていると思います。村もこれだけやっているんだ、これは期待できるなっていうことを示すことが、運営を希望する候補者が手を挙げてくれることだと思うんですね。

それで、村としてどのような公共施設、機能っていうのを捉えているのか、どういうふうを描いているのかを知りたいです。

それと、住民の意見を聞く場をどう設けるのか。これも大きな課題だと思うんですが、賛否が別れてスタートした教訓があります。やはり住民の声というものは大きな一つのテーマなので、一致団結というわけでもいきませんが、方向を一つにした進め方をすれば私は成功するのではないかと考えています。

自分個人としても、ファームス木島平がスタートしたときは大賛成でした。コンセプトも良かったです。農の拠点6次産業施設、本当にこれからの村が活性化に繋がっていく良いコンセプトだなと思います。村の玄関口、近隣市町村との交流の場としても大いに期待できる場でもあったので、私は大賛成でした。

現実には建物の損傷もあり十分活用されていませんが、今後、運営次第で木島平の存続をかけた地域活性化、賑わいを創設できる施設に蘇ると自分としては信じています。

木島平への玄関口として、近隣市町村との交流の場、近隣の道の駅とは違ったコンセプトを掲げる。例えば農の拠点6次産業施設と位置づけに、そこに多世代が寄りついてもらえる場所の一案として、プラスコンセプトで、「健康の拠点施設」健康村への入口として体のケアができる、例えばスポーツジムとか、マッサージサロンの施設を設けてはどうかという自分の思いなんですが、そんなことも考えられるのではないかと思います。

現在、民生課と生涯学習課がタイアップ事業として行っている「ステキなカラダをつくりま専科」のように、常に体調管理ができる場所として、また、今アクティビティな地域おこし協力隊が大勢いて、協力隊の助言とか指導いただけるのではないかと。また、E-BIKEの活用、樽川堤防でのジョギング等、日頃の体調管理ができる「健康拠点」として、一つ取り組んでいけないかというふうにも思っています。そのことが、ふるさと納税で今評判のマッサージを置いて日頃のケアを、そしてその後、木島平が進めていく「健康と美容の村へ」弾みがついていくのではないかと考えています。

以上、ファームス木島平の未来ということで問いかけておりますが、とにかく村としてどのような公共施設、機能を描いているのか、住民の意見をどのように聞こうとしているのか、伺いたいと思います。

議長（勝山 正）

日墓村長。

（村長「日墓正博」登壇）

村長（日墓正博）

ファームス木島平についてのご質問であります。議員ご指摘のとおり、道の駅ファームス木島平の運営改善方針については、長年に渡りまして検討してきたところであり。その都度、議員の皆様にもご相談してきております。大きな報酬としましては、これまで説明してきましたとおり、国庫補助事業による長期利用財産であるため、令和7年3月以降に運営を希望する民間事業者とともに、真に必要な機能を備えた施設を整備することで村の活性化を牽引する施設運営を目指していくこととしております。

今後、施設整備の検討方法についても協議させていただきますが、施設のコンセプトや整備内容、公共的機能について関係者や村民の皆様のお聞きする機会として、検討委員会を予定しております。先ほど様々のご提案をいただきましたが、それらの内容や今までお聞きした意見も含めて、様々な分野のご意見をお聞きしつつ、施設整備基本計画を策定する予定としております。

議員のご提案につきましても、施設の規模や事業費、集客機能、公共性、今後の維持管理方法、将来性などを合わせ検討していくこととなりますので、ご理解をお願い申し上げます。

なお、再生整備する道の駅につきましても、設計等の段階から運営者である民間事業者の意向を反映して、その経営能力やノウハウを活用する方法を用いて行うことを現在想定しております。

議長（勝山 正）

山本隆樹 議員。

再質問

4番 山本隆樹 議員

方針がちょっと分かりにくいのですが、お願いする希望者と共に検討していくと。運営する事業者の目線で使いやすいレイアウトや構造を検討して、その抜本的な改修、一部建て替えを検討していきたいというふうに捉えました。

運営を希望する事業者を前提ではなくて、今、村がどのような玄関口を理想としているのか。村として、こういう公共の場を作るから、そこに賛同し経済的活動の運営事業に手を挙げる公募をしてい

くのが最適ではないかと思えます。その方が公募としても手を挙げやすく、運営を希望する会社も、村の活性化を牽引する施設として、両方が一つになって進んでいけないかと思えます。だからどっちが先か、民間事業者が来て、それに乗って良い方向へ進めていくというのが理想なのか、やはり村が中心になって、こういう玄関口を作りたい、こういう公共的な村を。今、保育園、小学校、中学校、農林高校との連携で交流を賑わせている公共の場であったり、その農園・お花畑、研修の場として公共の場を使われていたり。それと、近隣市町村の交流の場として充実させていく進め方を今することによって、運営事業者がこれから手を挙げやすくなるのではないかと。今やることとして、進め方としては、令和7年3月以降を見据えて、それから進んでいけば、例えば令和5年中に計画、令和7年度に事業者を選定して、開始されるのが令和9年だとか10年だとか伸びていってしまう前に、一つ大きな公共の場、村の玄関口としての理想を作り上げていくのが筋だと思うのですが、いかがでしょうか。

議長（勝山 正）

湯本産業企画室長。

（産業企画室長「湯本寿男」登壇）

産業企画室長（湯本寿男）

それでは、私の方から再質問にお答えをいたします。

山本議員おっしゃるとおりだと思います。

先ほど村長の答弁にもございましたように、施設のコンセプト、整備内容、公共的機能等については、関係者の皆さんや村民の皆さんにご意見をお聞きしながら、検討委員会というような形を予定しております。今までお聞きしてきた意見も多数ございますので、そういったことも反映させていながら基本計画を作っていきたいと思えます。

その後、民間事業者のアイデアや考え方も含めながら募集していくのがセオリーだとは思いますが、具体的な事業をどうしていくかというのは、その時点から考えていければと考えておりますので、よろしくお願ひいたします。

議長（勝山 正）

山本隆樹 議員。

再々質問

4番 山本隆樹 議員

現状のコンセプト、農の拠点6次産業というのも大きなテーマだし、そこへ同時にプラスアルファとしての施設を上手に加味して、賑わいのある玄関口としての木島平の活性化を望みたいと思えます。

一つ、あまりその話題になってないんですけど、施設に水槽があるんですね。どうもその水槽が何も話題にも上ってきてなくて、何か村として考えがあるのか、その辺がちょっと気になったので、質問させていただきます。

議長（勝山 正）

日墓村長。

（村長「日墓正博」登壇）

村長（日墓正博）

話題にならないことはなくて、話題にはなるんですが、良い活用方法が浮かばないという段階です。実際問題、底が張ってありますので水が溜まってしまうという問題もありまして、これをそのまま維

持するのか、それとも解体してしまうのか、その辺も含めて、活用方法も含めて検討していきたいと考えています。

議長（勝山 正）

以上で、山本隆樹 議員の質問を終わります。

（終了 午前10時28分）